山川薬園跡及びリュウガン

【所　在　地】指宿市山川町新生町 35
【種　　別】県指定天然記念物・県指定史跡
【指定年月日】昭和 29 年３月 15 日

リュウガン

山川薬園跡は，万治２（1659）年，島津光久の時に設けられた薬園の跡で，当時島津氏は，佐多，山川，吉野の三カ所に薬園を設けて薬用植物の栽培に努めたが，このうち最も古いのがこの薬園である。当時は山川の島津薬園とよばれ，リュウガンのほかにレイシ，ハズ，キコク，カンラン等多くの植物が栽培されていたといわれる。

リュウガンは中国南部や台湾に自生するムクロジ科の樹木で，４～５月頃に芳香のある白い花を咲かせ，７～８月に直径１～２ cm，褐色で球形の実をつける。果肉は汁が多くて甘く生食もするが，乾燥させて強壮薬として用いる。

この地のリュウガンは，高さ 10m，幹回り 3.5m，根回り６ m ほどで樹齢 300 年と推定される老木で，唯一薬園跡に残っているが，周辺には幼木も植えられ保護されている。